

月例法話

「恥をかきながら精進しなさい！」

日時：1月20日(月曜日)10:30～

場所：真言宗東芳山**花鳥寺**寺務所3階

地下鉄東西線「蹴上下車」東へ徒歩約13分南側東山花鳥霊園内、駐車場完備

読経 佛前勤行(真言宗総本山東寺)

法話／土口哲光 住職

終了後「お悩み相談」は事前にお申込み下さい ☎075-593-7800／個別／秘密厳守

土口哲光住職の著書

真言宗総本山教王護国寺(東寺)第256世砂原秀遍猊下推薦の一冊！

「泣いて生まれてきたのだから

笑って死にゆく準備をしよう」

神戸市西区の真言宗御室派長福寺の長男として生まれ、僧侶となるべく高野山大学に学んだ土口住職。日本の全宗教を取材対象とする「中外日報社」に入社し役員となる。退社後は総本山教王護国寺(東寺)に教化部長として入山、「御影供」の「弘法市」より御影堂の唐門の前に立って辻説法を続けていた。

本書は、そんな土口住職の温かい包容力のある人柄を彷彿とさせる珠玉のエッセイ集。

土口哲光和尚の説法／高瀬川だより2月218号寄稿文

《恥をかいて精進しなさい》

墨書が全く書けない六十歳の自分にあきれて、書の教室に入門した。墨が飛び散って衣服を汚す。妻の割烹着を持ち出し掛けて紙面に向かう。週に一回、夕刻六時から二時間の講座にできる限り出席する。中国古典からの漢字の手本を見ながらの臨書、平仮名、やがて書体の一つ隷書にも挑戦した。十六年が瞬く間に過ぎ、「人は書なり、書は人なりの世界」を感じている。当初に東寺の境内・山門など七箇所にある掲示板へ弘法大師さまの経典からの言葉と解説を綴るよう指示された。書の師匠・三藤観映先生に相談すると、「引き受けなさい。字が上手になるには時間がかかるので恥をかきながら始めよ」と。確かに反響はあり、恥の嘲笑の声から激励のエールまで、お育て戴いた。